

復興庁

出前授業

- 
- 01 東日本大震災の概要 … P2
 - 02 復興の現状 … P10
 - 03 残された課題 … P20
 - 04 震災を語り継ぐために … P29

東日本大震災の概要



01

被害の概要

死者 : 19,782名 *震災関連死を含む
行方不明者 : 2,550名
住家被害 : 122,053棟 *全壊棟数

令和7年3月10日取りまとめ



経験したことのない複合的な大災害

地震 及び **津波** による被害に加え、福島第一原発の事故による放射性物質の放出に伴う **原子力災害** といった経験したことのない未曾有の **複合災害**。



日本国内観測史上最大規模、
1900年以降、世界でも4番目に大きい規模でした。

発生日時

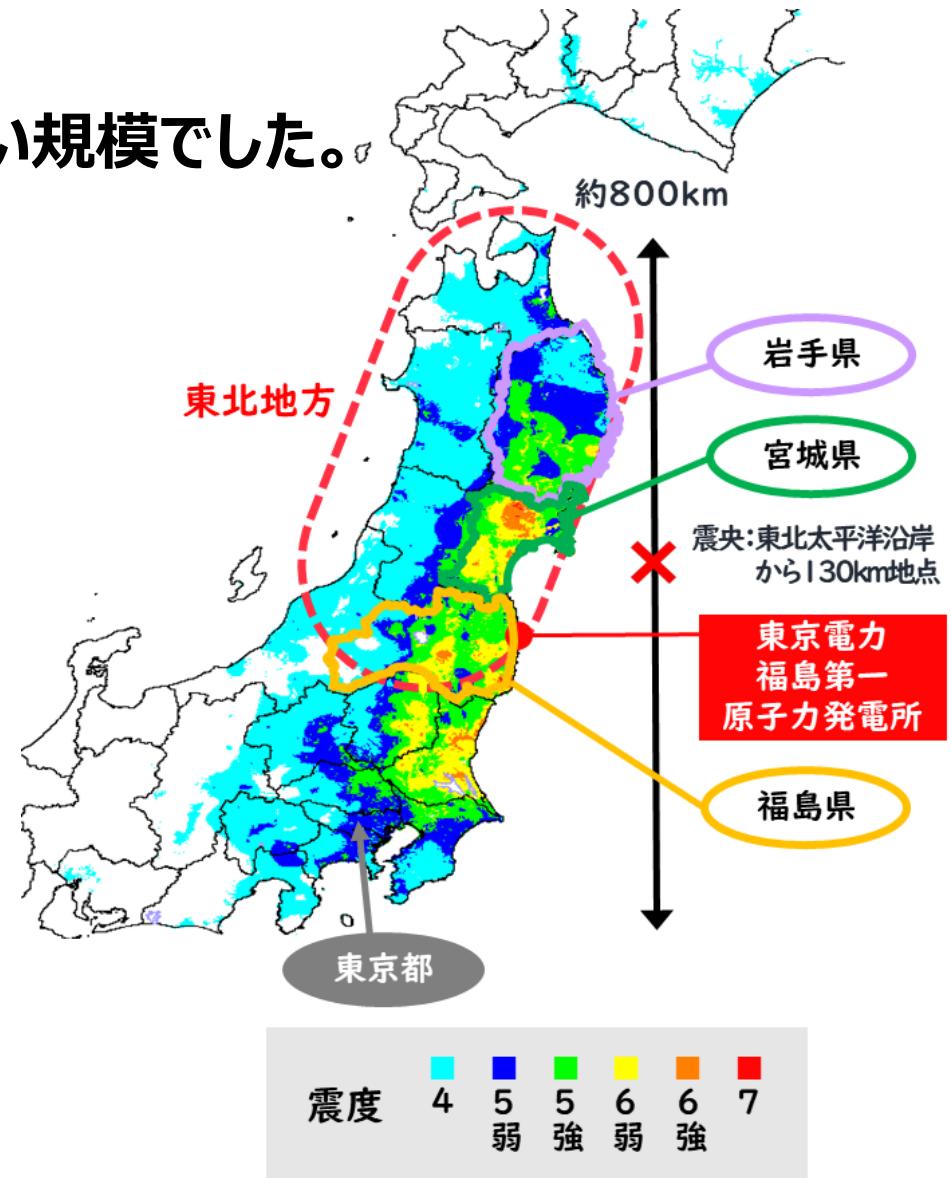
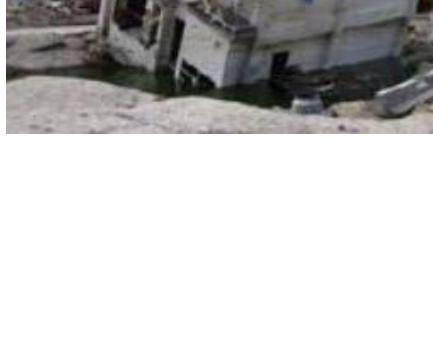
2011年3月11日 14:46

マグニチュード

Mw 9.0

地震型

海溝型



東日本の太平洋沿岸各地の広い範囲で津波による浸水がおこり、甚大な被害が発生しました。

津波到達

15:00頃～

地震発生からわずか15分
で津波が到達し始める

浸水面積

561km²

東京23区の約9割の面積

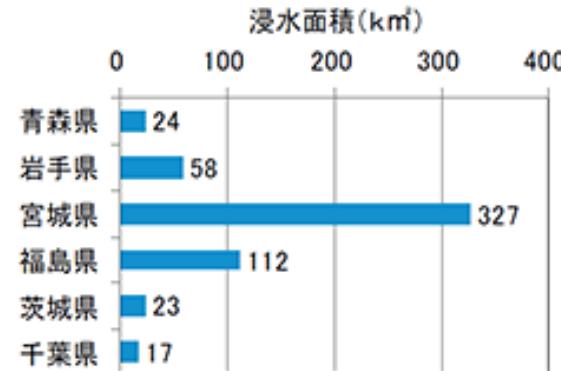


宮城県気仙沼市

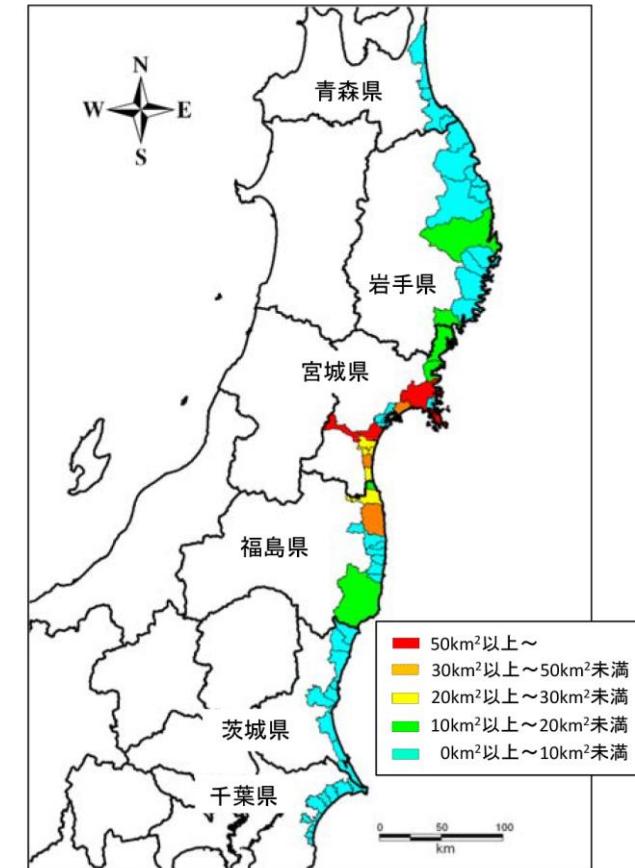


福島県相馬市

県別浸水面積



各市町村の浸水面積



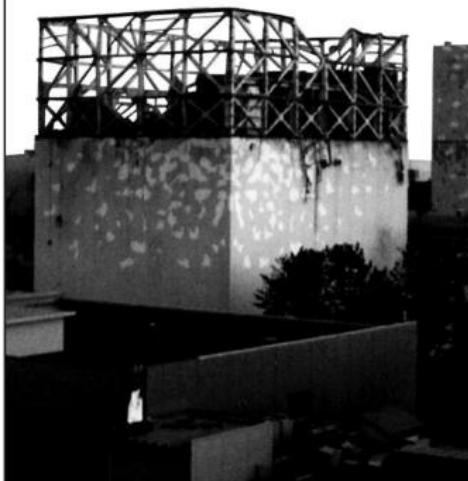
東京電力福島第一原子力発電所にも津波が到達、 地震と津波による停電で「冷やす」ための機能を喪失しました。

2011.3.11



原子炉建屋 1・3・4号機が水素爆発を起こし、 広い範囲に避難指示が出ました。

3.12



15:36

福島第一原子力発電所
1号機原子炉建屋 水素爆発

Hydrogen explosion occurs in the reactor building of Unit 1 at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station

福島第二原子力発電所から
半径10km圏内に避難指示

Evacuation order issued for a ten-kilometer radius around the Fukushima Daini Nuclear Power Station

17:39



18:25

福島第一原子力発電所から
半径20km圏内に避難指示

Evacuation order issued for a twenty-kilometer radius around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station



11:01

福島第一原子力発電所
3号機原子炉建屋 水素爆発

Hydrogen explosion occurs in the reactor building of Unit 3 at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station

3.14

3.15

6:00頃

福島第一原子力発電所
4号機原子炉建屋 水素爆発

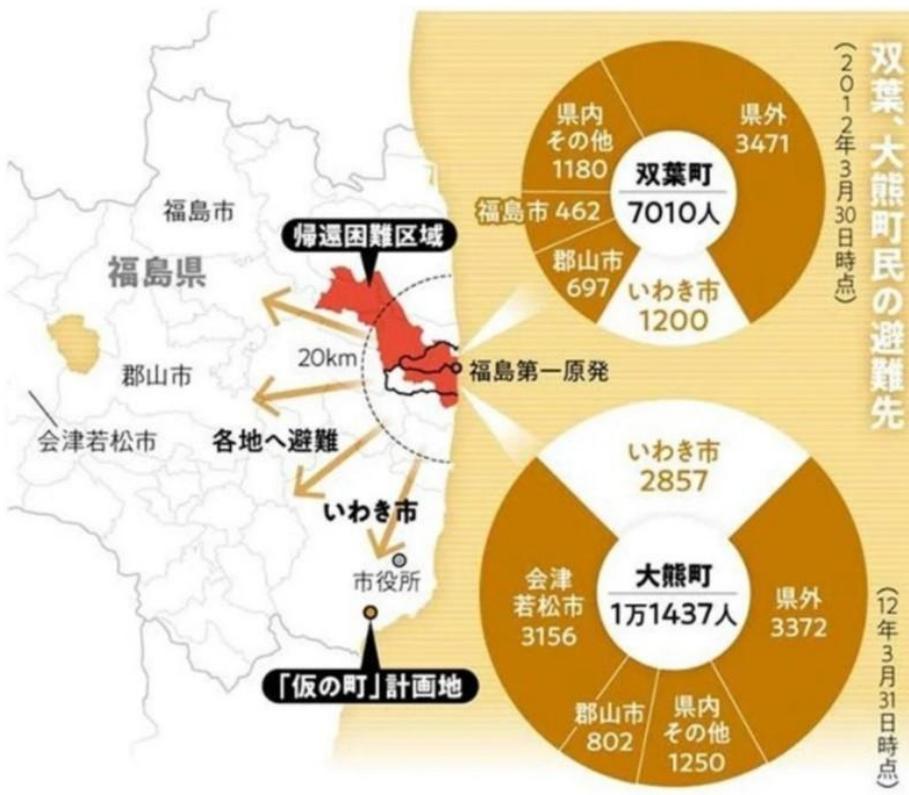
Hydrogen explosion occurs in the reactor building of Unit 4 at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station

11:00

福島第一原子力発電所から
20～30km圏内に
屋内退避指示

Shelter-in-place order issued for a 20-30 kilometer radius around the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station

福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の放出に伴い、周辺の多くの住民が避難を余儀なくされました。



さいたまスーパーアリーナでの双葉町民の避難生活



旧騎西高校での双葉町民の避難生活



全町避難のため役場でバスを待つ大熊町の人たち

出典：読売新聞オンライン 2021.01.12, 2021.02.23の記事より

<https://www.yomiuri.co.jp/shinsai311/feature/20210111-OYT1T50126/>

<https://www.yomiuri.co.jp/shinsai311/feature/20210222-OYT1T50227/>

復興の現状



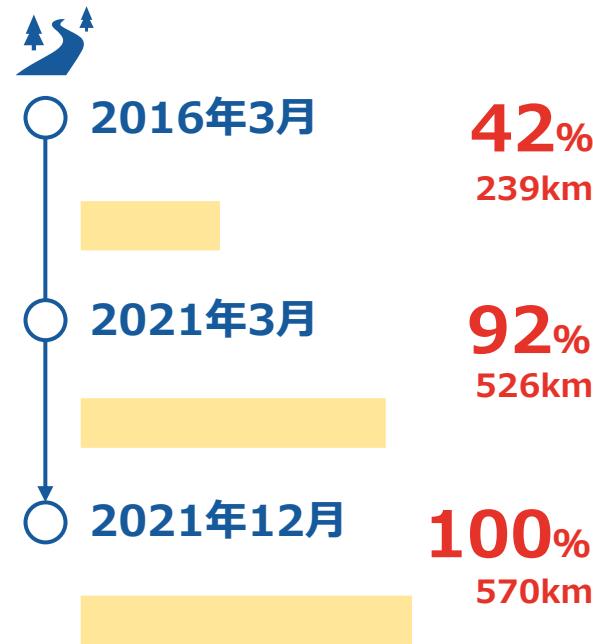
02

一番多い時で47万人の方が避難していたが、現在は約2.7万人まで減少
道路や公営住宅などの整備は、どちらとも100%完了

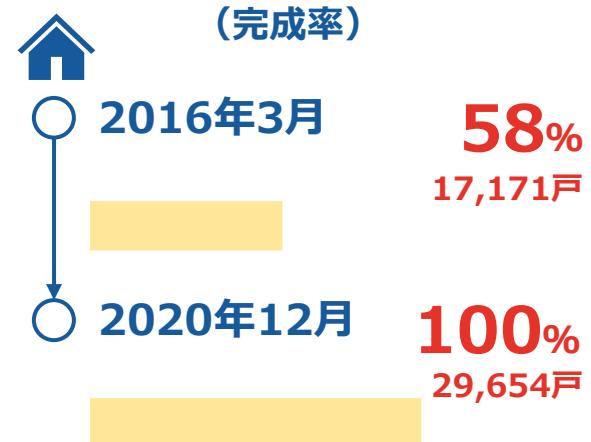
避難者数の推移



復興道路・支援道路の整備

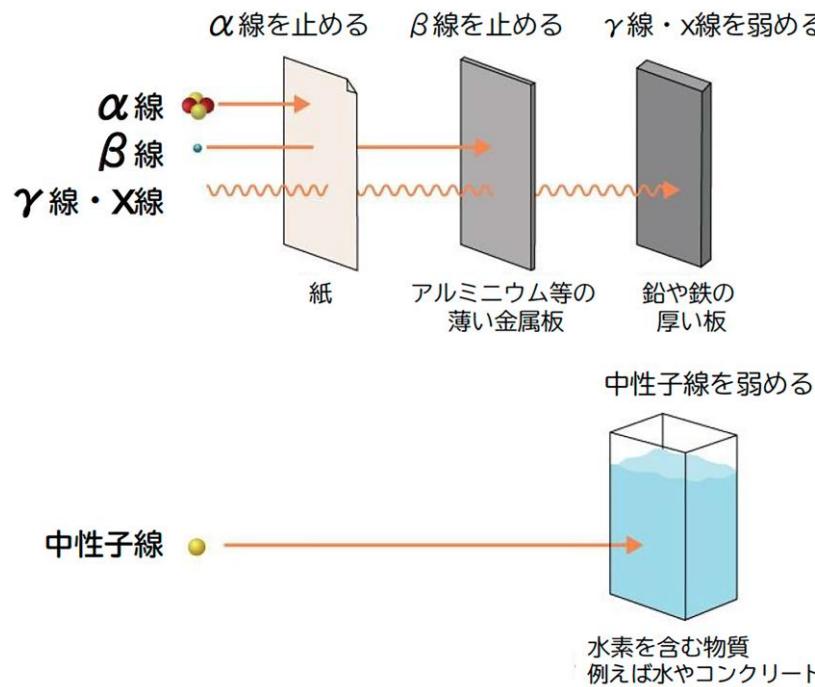


災害公営住宅の整備



放射線とは、高いエネルギーをもった高速の粒子（粒子線）や電磁波のことを行います。

放射線の種類と性質



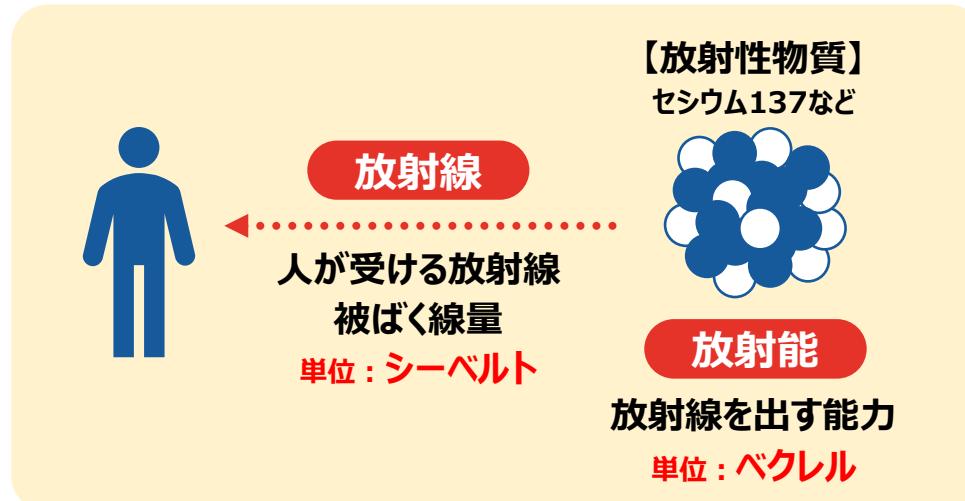
放射線は目に見えませんが、物質を透過する性質や原子を電離（原子中の電子が増減すること：イオン化）する性質があります。高速の粒子の放射線には、 α 線、 β 線、中性子線などがあります。また、電磁波は波の性質をもっていて、テレビやラジオの放送に使われている電波や自然の光なども含まれますが、電磁波のうち波長の短い（エネルギーの高い）X線や γ 線を放射線として区別しています。

どれも物質を透過する能力をもっていますが、その能力は、放射線の種類によって程度が異なっています。

例えば、 α 線は紙1枚でも遮ることができます。 β 線は紙1枚では遮ることはできませんが、アルミニウムなどの薄い金属板で遮ることができるなど、放射線は種類によって材料や厚さを選ぶことにより遮ることができます。

放射線は、風邪のように人から人へうつることはあります。
人が放射線を受けても、放射線が体にとどまることはなく、放射線を受けたことが原因で人が放射線を出すようになることもあります。また、放射性物質が、万一、服や体に付着してしまった場合でも、シャワーを浴びたり衣類を洗濯したりすれば洗い流すことができます。

放射線を出す物質が「放射性物質」、
どのくらいの量の放射線を出すかという放射性物質の能力が「放射能」です。



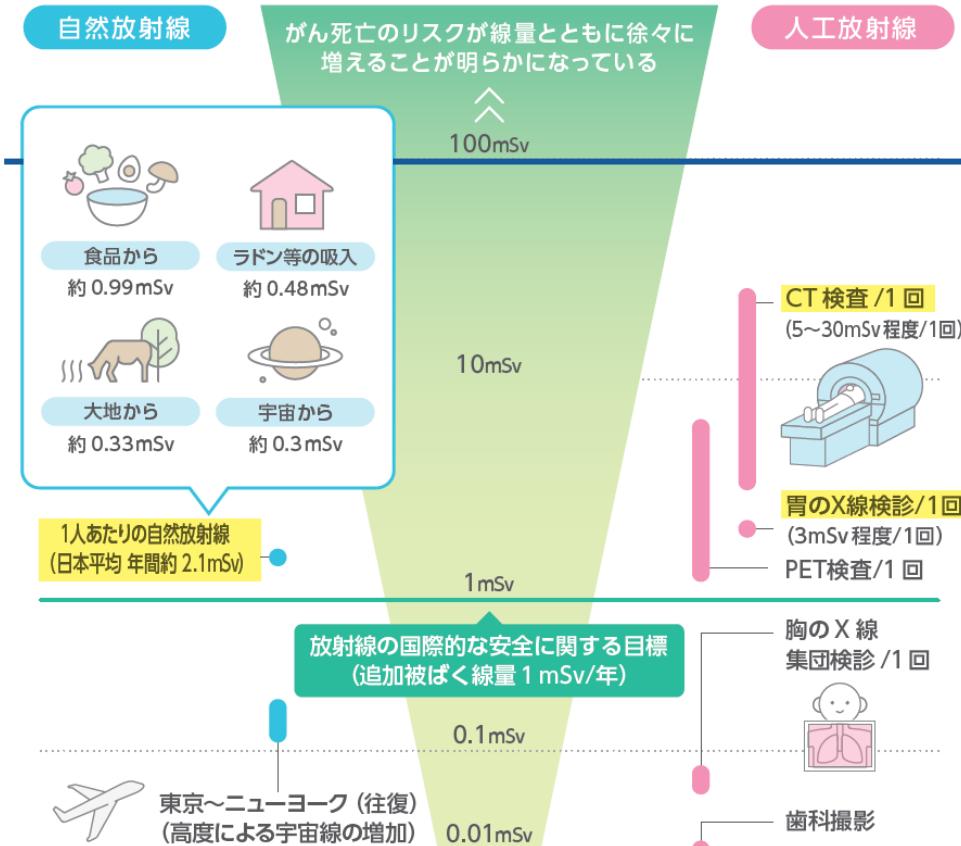
【参考】 1シーベルト(Sv) = 1,000ミリシーベルト(mSv) = 1,000,000マイクロシーベルト(μSv)

1ミリシーベルト/年を1時間あたりに換算 0.23マイクロシーベルト/時間(注)

(注) 1日のうち屋外に8時間、屋内（遮へい効果がある木造家屋）に16時間滞在するという生活パターンに加え、自然放射線を加えて算定。

人の身の回りには日常的に放射線が存在し、日常生活において、放射線被ばくをゼロにすることはできません。

被ばく線量の比較



100mSv (ミリシーベルト)

100mSvより低い線量の場合は、被ばくの影響によるがんの死亡リスクは確認されていない。

医療検査等でも被ばくする

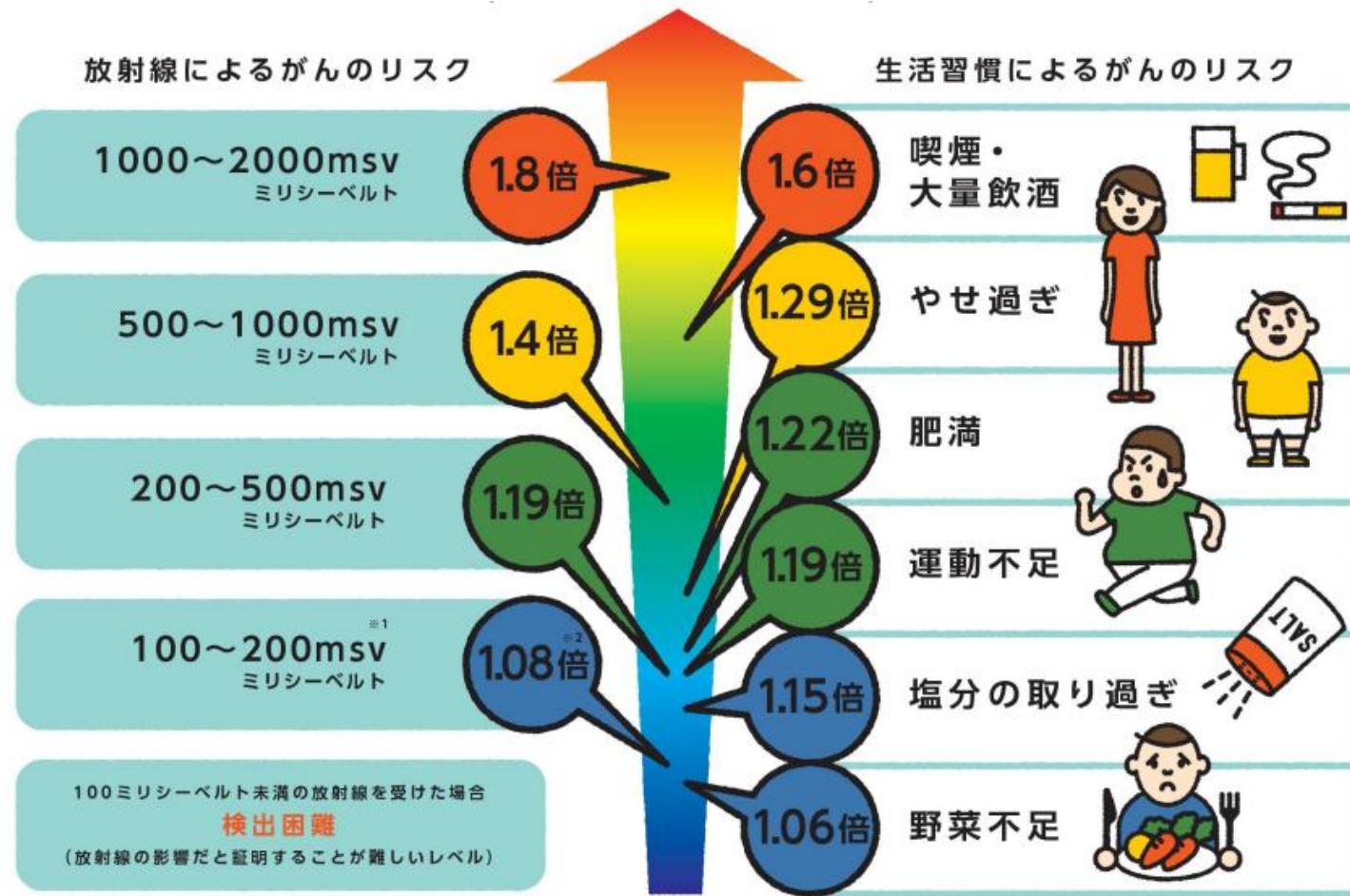
例 胸のX線検診 0.1mSv以下／回

胃のX線検診 3mSv程度／回

CT検査 5~30mSv程度／回

がんのリスクとその要因（放射線や生活習慣病によるもの）

がんのリスク増大

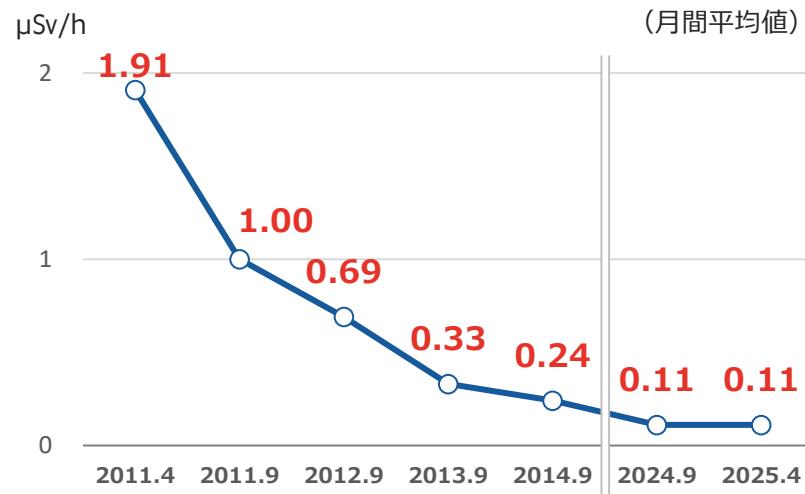


出典：国立がん研究センター ウェブサイトを基に復興庁作成

出典：復興庁パンフレット「放射線のホント」より

現在の福島県における空間線量率は、日本国内の他の都市や世界の都市と比べて変わらない水準となっています。

空間線量率の推移（福島市）

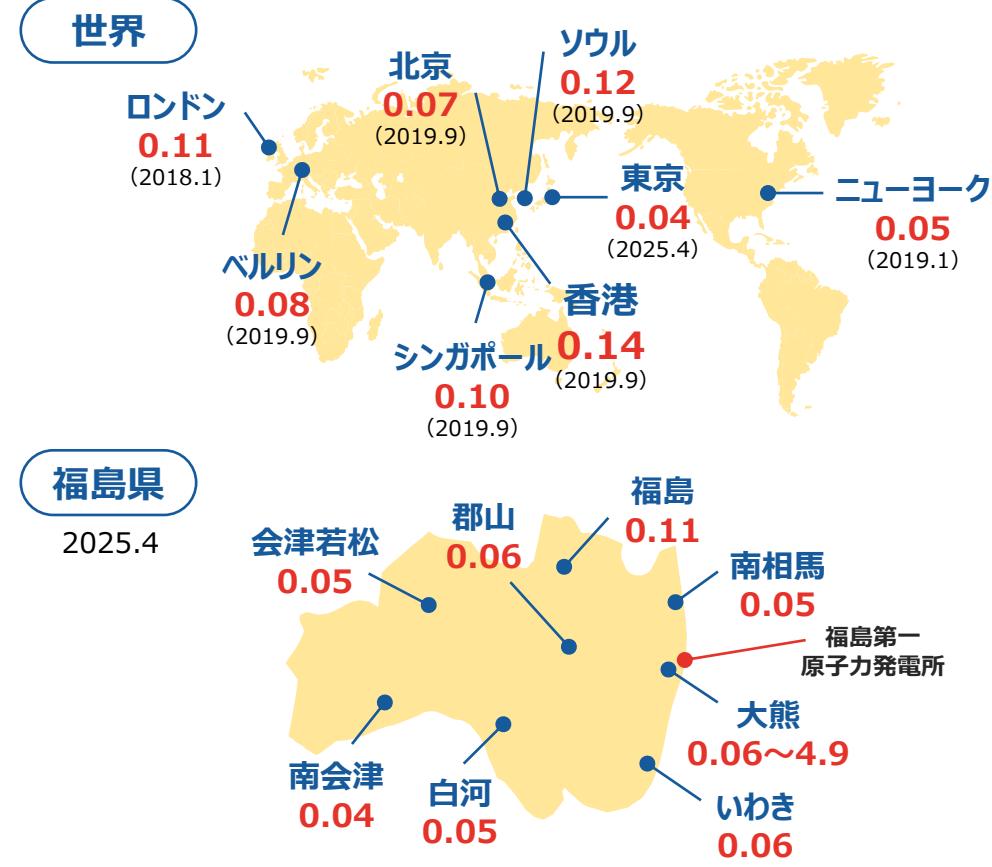


出典：福島県災害対策本部（暫定値）

＜空間線量率とは＞

空間線量率は、空間中の放射線量（ガンマ線量）を測定したもので、1時間当たりのマイクロシーベルトで表示されています。
計測された数値には、大地からの放射線と宇宙線も含まれます。

福島県と世界の主要都市の空間線量

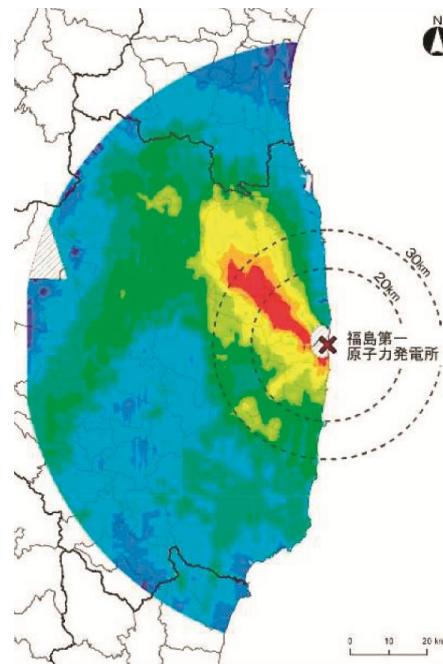


出典：ふくしま復興のあゆみ（43号）令和7年8月26日 新生ふくしま復興推進本部

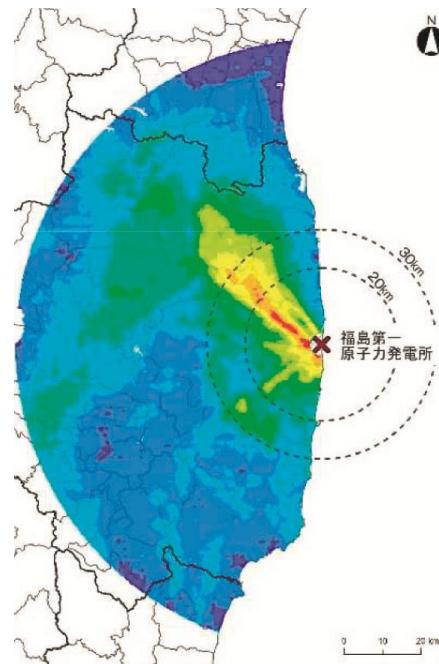
福島県内の空間線量率は、除染の実施や自然減衰などにより事故直後と比較して大幅に低下しています。

■ 東京電力福島第一原子力発電所から半径80km圏内の空間線量率の推移

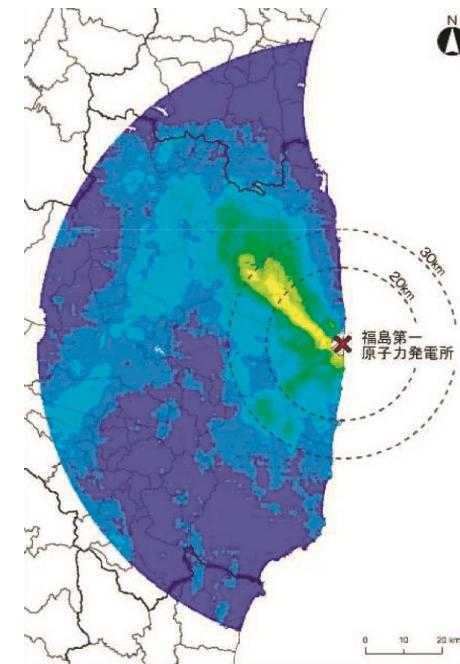
事故から1ヶ月



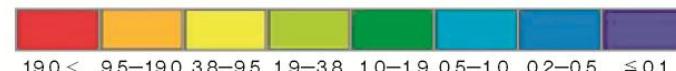
事故から30ヶ月



事故から127ヶ月



凡例 地表面から1mの高さの空間線量率(μSv/h)



測定結果が得られていない範囲

出典：「東京電力福島第一原子力発電所周辺の航空機モニタリング」（原子力規制委員会）をもとに復興庁作成

基準値を超える放射性物質が食品から検出されることは殆どありません。
基準値超過が確認された食品は、市場に流通しないよう措置がされています。

農林水産物のモニタリング検査の結果

2024年4月～2025年3月

種別	検査点数	基準値超過数	超過数割合
野菜	1,448件	0件	-
果実	413件	0件	-
畜産物	1,573件	1件	0.1%
山菜・きのこ	1,005件	2件	0.2%
魚介類	3,404件	0件	-

出典：ふくしま復興情報ポータルサイト これまでのモニタリング検査結果【年度別集計】をもとに復興庁作成

食品1kgあたりの放射性セシウムの基準値

単位：ベクレル/kg

	日本	米国	EU
乳児用食品	50		400
牛乳	50	1,200	1,000
飲料水	10		1,000
一般食品	100		1,250

出典：復興庁HP「福島の今」ちゃんと知りたい放射線のこと より

米の全量全袋検査の結果

2024年8月24日～2025年7月22日

種別	検査点数	基準値超過数	超過数割合
玄米（2024年度産）	74,813件	0件	-

出典：「ふくしまの恵み安全対策協議会」HPをもとに復興庁作成

大熊町

新教育施設 学び舎 ゆめの森

一時、全町民が避難した大熊町では、本格除染が完了し、比較的放射線量の低い大川原地区を復興拠点として、開発を行うこととしました。

2023年4月、義務教育学校と認定こども園が一体となった「大熊町立学び舎 ゆめの森」が開校しました。



出典：[大熊町公式サイト「大熊町復興通信」](#)

富岡町

夜の森の桜並木

2023年4月、特定復興再生拠点区域の避難指示解除により、夜の森地区のバリケードが撤去されました。

富岡町のシンボルである恒例の桜まつりが、震災前と同じ会場で14年ぶりに開催され、町内外の多くの人でにぎわいました。



出典：[復興庁「東日本大震災発災10年ポータルサイト」](#)

残された課題



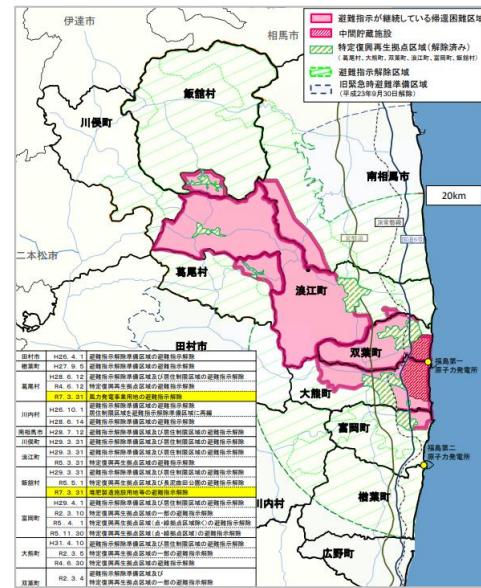
03

避難指示区域の減少

2013年8月8日

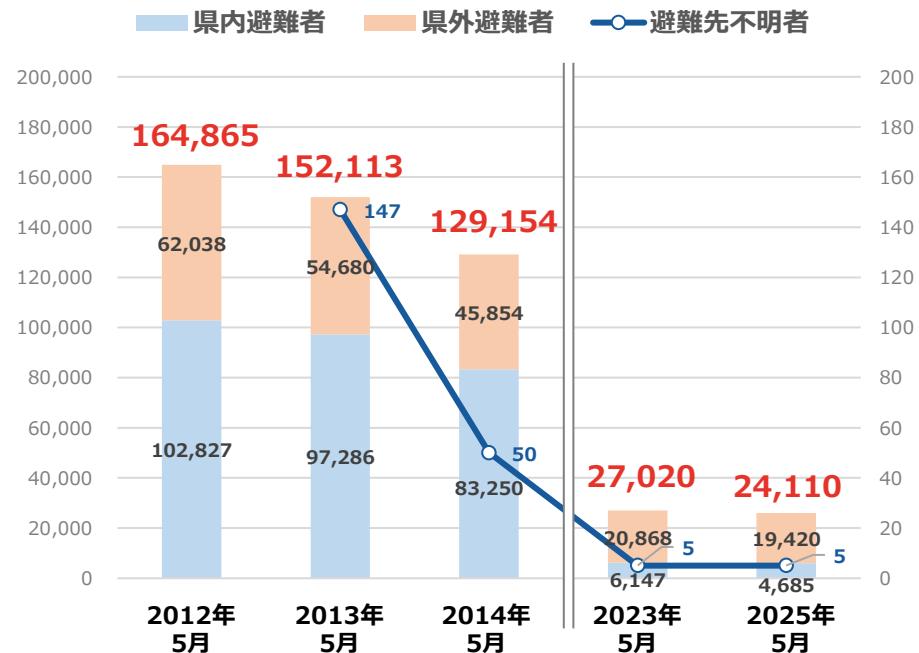


2025年3月31日



出典：福島県HP「ふくしま復興情報ポータルサイト」福島県の被害状況 避難指示区域の変遷 より

福島県避難者数の推移



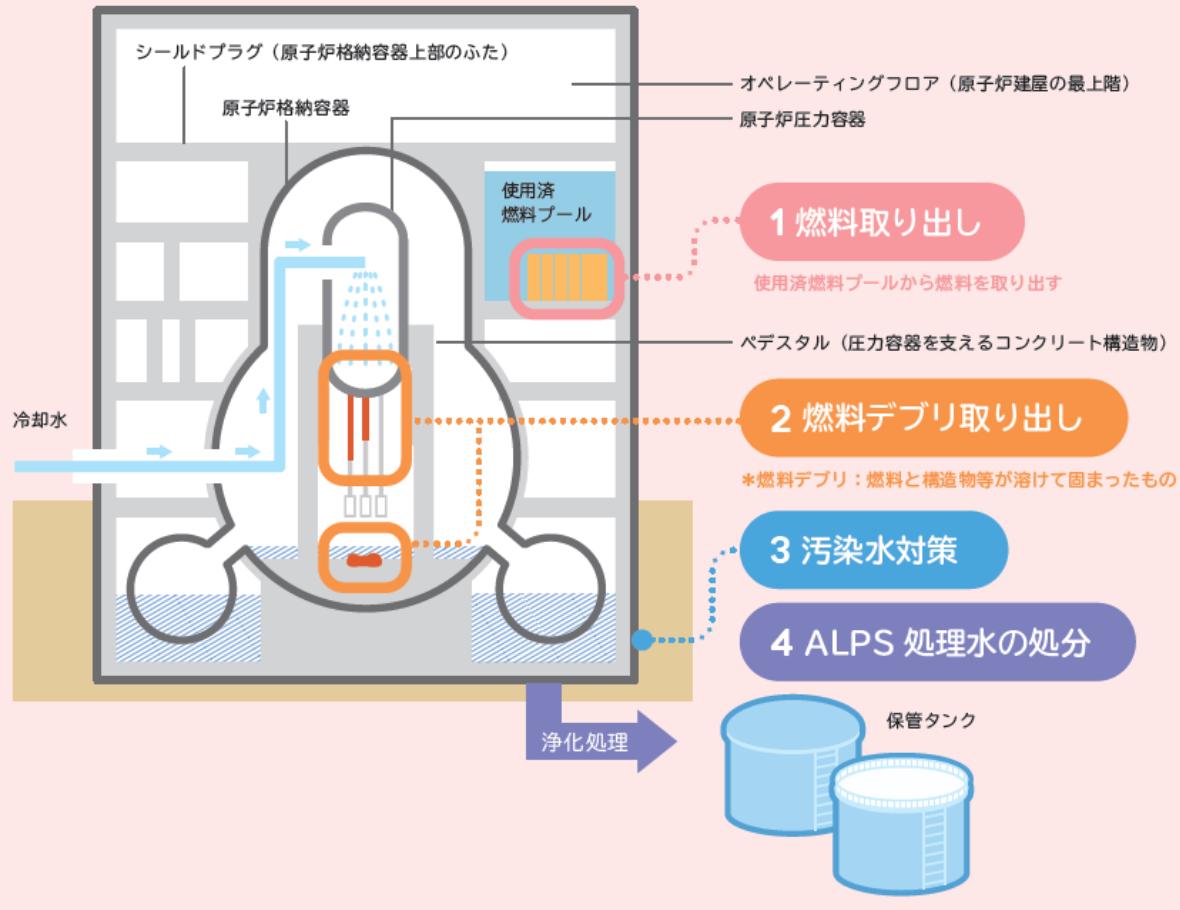
残された帰還困難区域

約309km²
(令和7年8月現在)現在も避難を
余儀なくされている人数24,110名
(令和7年5月現在)

出典：福島県 新生ふくしま復興推進本部「復興・再生のあゆみ 第17版」

主な5つの作業

原子炉建屋（概念図）



出典：経済産業省パンフレット「廃炉の大切な話」

東京電力福島第一原子力発電所 1～4号機の現状

21

使用済み燃料プール内の燃料取り出しについては、3・4号機で完了。

1・2号機における取り出し開始に向けて大型カバーや燃料取り出し用構台の設置作業を実施中。

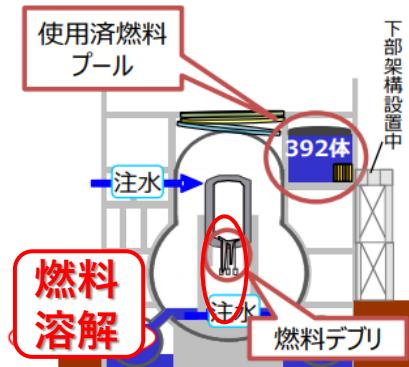
2024年11月、2025年4月の2回にわたり、2号機において燃料デブリの試験的取り出しに成功。

* 1回目約0.7g、2回目約0.2g

1号機

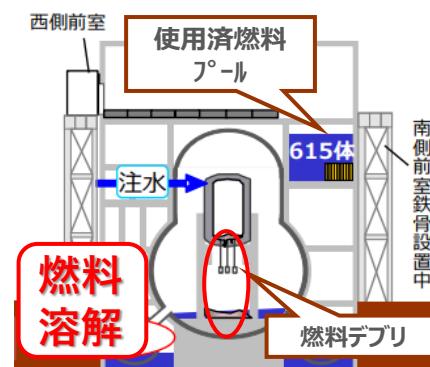
水素爆発

大型カバーや燃料取り出し用構台の設置作業を実施中



2号機

2024/11、2025/4
燃料デブリの取り出しに成功

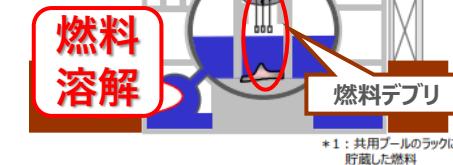


3号機

水素爆発

2021/2/28
燃料取り出し完了

取り出し完了燃料（体）※1
566/566

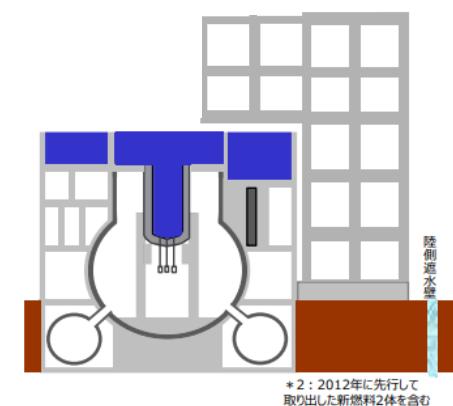


4号機

水素爆発

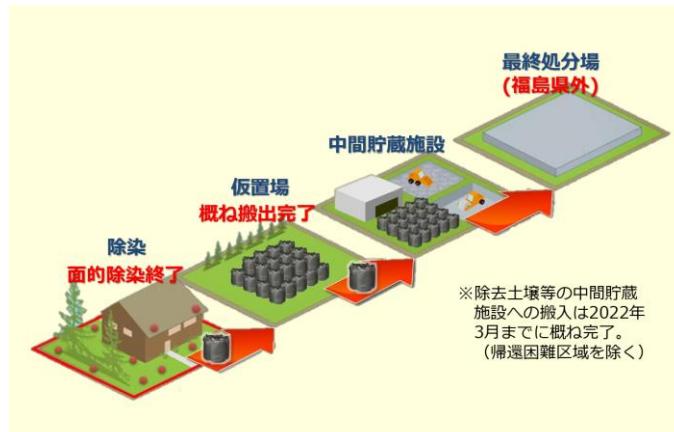
2014/12/22
燃料取り出し完了

取り出し完了燃料（体）
1535/1535※2



**福島県内の除去土壤等については、
中間貯蔵開始後30年以内（2045年3月まで）に福島県外で
最終処分を完了するために必要な措置を講ずることとされています。**

除染で取り除いた土壤等の処理の流れ



中間貯蔵施設の所在地



出典：福島県 新生ふくしま復興推進本部「ふくしま復興のあゆみ 第43号」

除染
森林(生活圏)の



住宅の除染



様子
中間貯蔵施設の



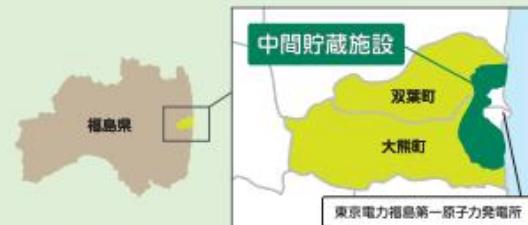
出典：環境省 除染アーカイブサイトより

出典：環境省 データでみるふくしま再生 より

**福島県内の除染によって発生した
除去土壤や廃棄物等は、
福島県内各地の仮置き場で
一時的に保管された後、
中間貯蔵施設に移され、
集中的に安全に保管されています。**

中間貯蔵施設の土壤は日本全体の課題

原発事故で深刻な被害を受けた福島のふるさとを取り戻し、福島の復興を進めるため、この土壤の行き先は全国で考えなければならない課題となっています。



▲大熊町・双葉町にまたがって設置されている中間貯蔵施設



▲中間貯蔵施設には東京ドーム約11杯分の土壤が一時的に保管

4分の3が資材としての利用が可能

こうした土壤は東京ドーム11杯分にも及びますが、その約4分の3は、貴重な資源として公共工事などで利用（復興再生利用）が可能なものです。

中間貯蔵施設にある土壤の内訳



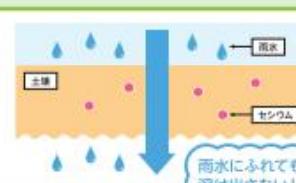
約4分の3の土は、「復興再生土」として有効活用

国際的な安全基準に合致

- 復興再生利用された土壤は別の土で覆われ、放射線による人体への影響は無視できるレベルです。また、雨水が浸透しても地下水等への問題は生じないという科学的知見が得られています。
- 復興再生利用は、国際的な機関(IAEA)の安全基準に合致した取扱いのもとで作業が行われ、作業員の安全が確保されます。



土壤に付着したセシウムは強く付着し剥がれない



復興再生利用の作業員の方



施工前(7/18)の放射線量

0.07~0.10μSv/時

施工後(9/19)の放射線量

0.10μSv/時

施工後の様子

→人体への影響を無視できるレベル

施工日

2025年7月19日、20日

施工面積

7m×7m

除去土壌

2m×2m×60cm 約2m³

復興再生利用断面図

除去土壌の飛散流出防止措置
覆土 20cm

(底面7m×7m 上面2m×2m)



提供 内閣広報室

復興再生利用の実施箇所で
あることを表示

福島国際研究教育機構（F-REI）



F-REIは、福島復興再生特別措置法に基づき、国が設立した特別な法人です。

福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとし、日本の産業競争力を世界最高の水準に引き上げ、経済成長や国民生活の向上に貢献し、世界的な「創造的復興の中核拠点」となることを目指します。

F-REIが取り組む5つのテーマ

ロボット

廃炉のための作業にも貢献する高度な遠隔操作ロボットやドローンなどの開発、性能評価手法の研究など
※性能評価手法
性能や働き具合を調べる方法のこと



農林水産業

農林水産資源の超省力生産・活用による地域循環型経済モデルの実現に向けた実証研究など



エネルギー

福島を、世界におけるカーボンニュートラル先駆けの地にするための技術実証など
※カーボンニュートラル
2050年までに地球温暖化につながるCO₂などの温室効果ガスの排出を実質的にゼロにすること



放射線科学・創薬医療、放射線の産業利用

放射線を利用した基礎研究や医療利用・創薬技術開発、超大型X線CT装置による放射線産業利用など

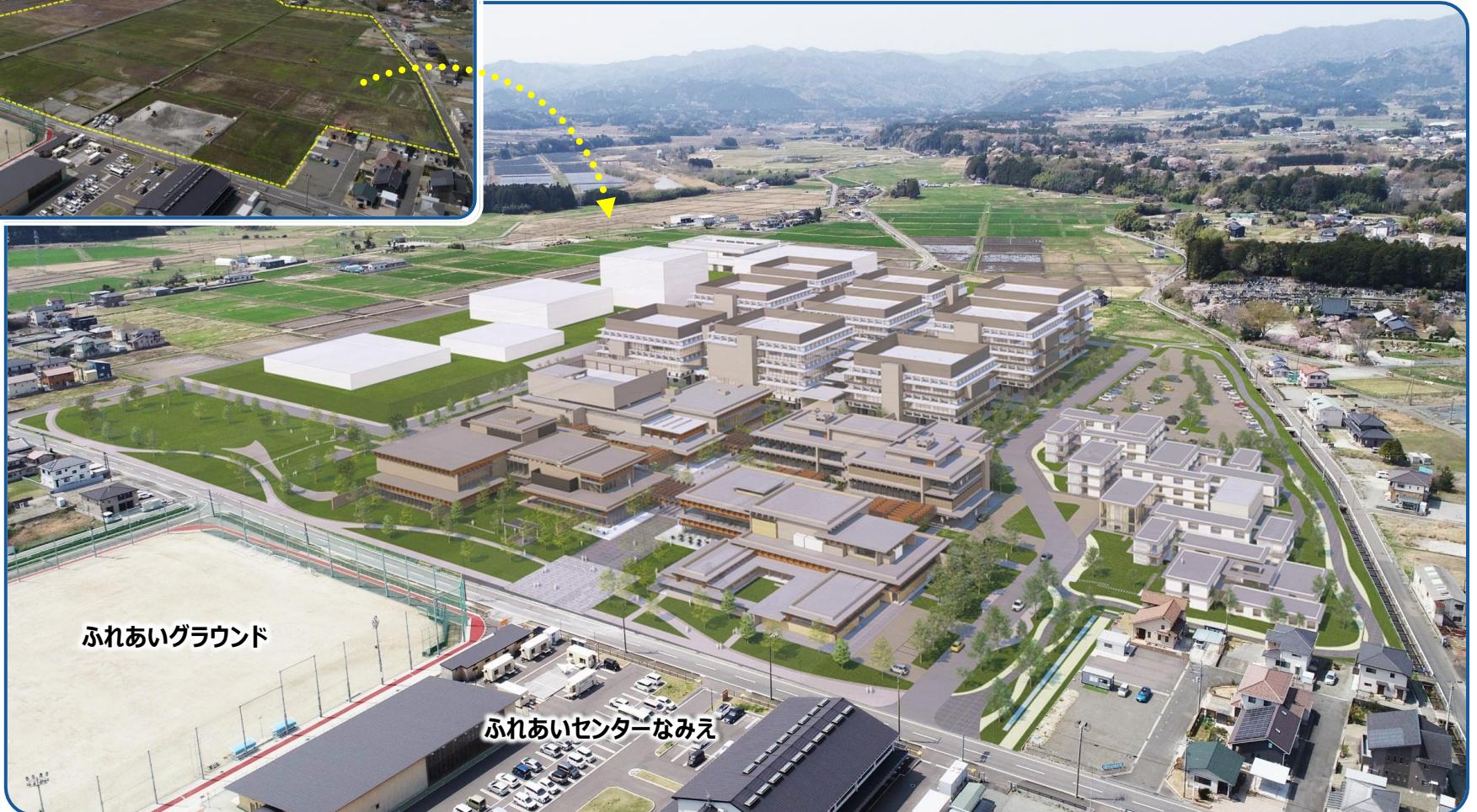


原子力災害に関するデータや知見の集積・発信

自然科学と社会科学の融合を図り、原子力災害からの環境回復、原子力災害に対する備えとしての国際貢献、風評払拭などにも貢献する研究開発・情報発信など



現況



日建設計・日本設計・パシフィックコンサルタンツ設計共同体提供
※整備イメージであり今後の設計で変更となる可能性がある

震災を語り継ぐために

04

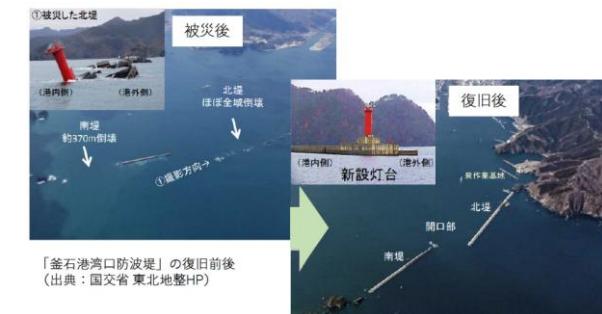
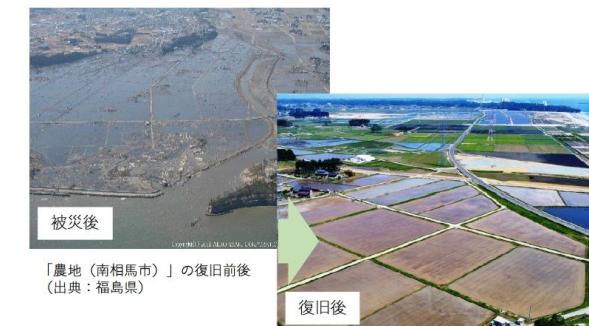
これまでの主な取組

成果

道路	■ 被災した道路の復旧や復興道路、復興支援道路の整備を推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本復旧を令和2年3月までに直轄区間1,161kmを完了 ■ 令和3年12月までに復興道路・復興支援道路570km全線開通
鉄道	■ 被災した鉄道の復旧や運行の再開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三陸鉄道リアス線（JR東日本から運営移管）は、平成31年3月に運転再開 ■ JR常磐線は、令和2年3月に浪江～富岡駅間が開通したことにより全線運転再開 ■ これにより、令和2年3月までに、BRTによる復旧を含め旅客鉄道の被災路線2,351km全てで運行を開始
港湾	■ 被災した港湾施設の復旧、整備を推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成29年度までに、釜石港湾口防波堤及び相馬港沖防波堤の復旧が完了し、被災した港湾のうち復旧工程計画に定められた港湾施設131か所の全てで復旧が完了
海岸 (防潮堤)	■ 被災した海岸堤防等の復旧、整備を推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 復旧・復興工事を計画した621地区について、99%（616地区）で工事完了（令和5年9月末時点）
河川	■ 被災した河川管理施設の復旧、整備を推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本復旧を平成27年3月までに直轄区間で被災した河川管理施設の2,115箇所の全てを完了
農地	■ 被災した農地の営農再開に向け、農地の復旧や除塩等を進めるとともに、農地の復旧と一体的に農地の大区画化を推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 津波被災農地19,660haのうち96%（福島県の原子力被災市町内的一部分820haを除く全ての農地）で営農再開が可能（令和5年9月末時点） ■ 農地の大区画化等ハード事業に加え、農地の利用集積を進めることで大規模で労働生産性の高い農業経営を展開。
漁港	■ 陸揚げ機能の回復に向け、漁港の復旧、整備を推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 319漁港全ての陸揚げ岸壁の機能が回復（令和4年3月まで） (※道路や河川など県市町村管理区間では、未完了事業が一部存在。)



「国道45号二十一浜橋」の復旧前後（出典：復興政策10年間の振り返り）

「釜石港湾口防波堤」の復旧前後
(出典：国土省 東北地整HP)「農地（南相馬市）」の復旧前後
(出典：福島県)

1 コミュニティ形成支援

恒久住宅への移転後のコミュニティ形成を円滑に進めるための活動を支援

例)

- ・災害公営住宅の入居者同士の交流会や、地元町内会との関係づくりやイベント開催による交流支援を実施（岩手県盛岡市）
- ・住民自治組織の設立や課題解決等に関する支援を行う地域づくりアドバイザーによる地域住民への助言・提言を実施（宮城県石巻市）
- ・双葉郡等からの長期避難者向けの災害公営住宅入居者と地域住民とのつながりを深める場づくり等を支援（福島県いわき市）



2 心の復興

被災者自らが参画し、活動する機会を創出し、人とのつながりや生きがいを持つことができる活動への支援

例)

- ・被災者の参画による心の復興事業（岩手県）
 - …被災者が前向きに生活することを支援するため、ミニコンサートなどの文化芸術や花壇づくりなどの地域の環境整備を通じた交流事業を実施。
- ・花の香るまちづくり事業（宮城県東松島市）
 - …被災者が花を植える作業を地域住民と協働で行うことで、一体感・充実感を共有し、孤立化の防止や友人づくりに繋げる。



3 心のケア支援

被災3県において、心のケアセンターを設置し、医師、保健師、看護師、精神保健福祉士などの専門家の多職種チームを構成し、被災者の心のケアに関する取組を実施。

具体的には

- ① 被災者へのアウトリーチを含む相談支援
 - ② 自治体職員等支援者の支援
 - ③ 人材育成・研修
 - ④ 心の健康に関する普及啓発
- 等を実施。

岩手県こころのケアセンター（5か所）

実施団体：岩手医科大学

- 中央センター
- 久慈地域センター
- 宮古地域センター
- 釜石地域センター
- 大船渡地域センター

みやぎ心のケアセンター（3か所）

実施団体：宮城県精神保健福祉協会

- 基幹センター
- 石巻地域センター
- 気仙沼地域センター

ふくしま心のケアセンター（5か所）

実施団体：福島県精神保健福祉協会

- 基幹センター
- 浜通り北部センター
- 浜通り南部センター
- 県北部センター
- 県中県南・会津方部センター



4 被災者生活支援

災害公営住宅等で暮らす被災者の日常生活上の困りごとに対応

- ・「いわて被災者支援センター」を設置し、専門家（弁護士等）や関係機関（市町村、市町村社会福祉協議会など）と連携し、被災者一人ひとりの状況に応じた支援を実施（岩手県）
- ・入居者等（特に車など移動手段を持たない方）の買い物や通院等の移動手段を確保し、日常生活を豊かにすることや、町民交流施設に停留場所等を設けることにより、施設の利用促進やそれに伴うコミュニティ形成構築にもつなげる（福島県飯舘村）



5 県外避難者支援

県外に避難された方の帰還・生活再建に向けた相談支援などを実施

例)

- ・県外避難者が身近な場所で相談できる「生活再建支援拠点」の設置（全国26か所で全国をカバー）
- ・福島の復興に向けた動きや避難者支援に関する情報誌を提供
- ・避難者同士や帰還者との交流会（福島県より避難先の都道府県で実施）



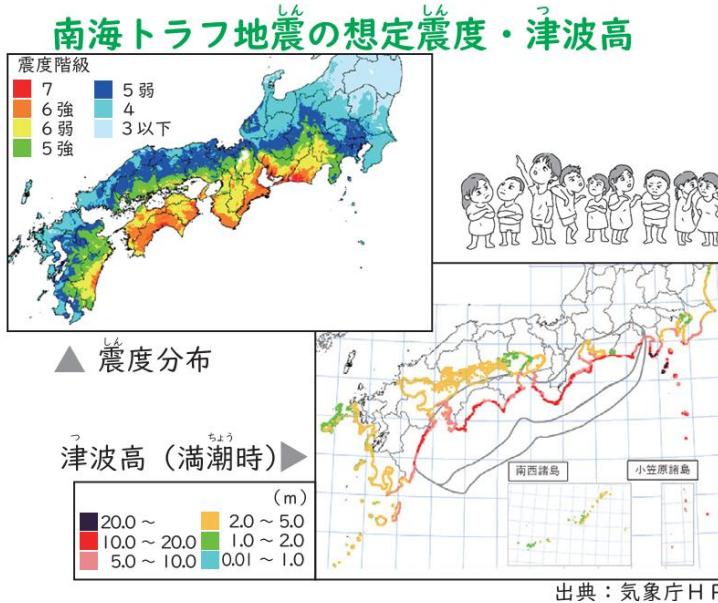
東日本大震災クラスの大地震・巨大津波は今後も必ず起こると予測されています

関東大震災

日本の災害で最大の被害が発生した関東大震災が発生したのは1923年、
今からほぼ100年前でした。

南海トラフ地震

さらに甚大な被害が見込まれている「南海トラフ地震」は、概ね100～150年間隔で繰り返し発生しています。
今後30年以内に発生する確率は70～80%と予測されています。



さて、皆さん、50mを何秒で走りますか。
一番走の速い人でも6秒台でしょうか。

津波は、沖合ではジェット機並みのスピード、
海岸近くでも50mを5秒のスピードで襲ってきます。
津波が見えてから逃げ出しても、
なかなか逃げ切れるものではありません。

命を守るために、どうしたら良いか、普段から考えておくことが重要です

防災のすすめ

こんなときどうする？

大都市で地震が起きると…

今後発生することが予想されている首都圏直下地震や南海トラフ地震では、津波被害の他、大都市特有の被害も多く発生すると考えられています。古いビルが崩れ外壁や窓ガラスが割れて落下する、通話の集中により電話やインターネットがつながりにくくなる、渋滞が起き避難が困難になる…など、いつどこで何が起こるかは予測不可能です。



地震が発生したら…

地震の揺れを感じたり緊急地震速報を見聞きした場合は、まず慌てずに身の安全を確保。屋内にいるときは「頭を保護すること、外に飛び出さないこと、火を消せるときは火を消すこと（無理に火を消しにはいかない）、扉を開けて避難路を確保すること」などが大事です。屋外にいる場合には、ブロック塀の倒壊や窓ガラスの落下などに注意して、そばから離れましょう。



津波が発生したら…

強い揺れや長い揺れを感じたり、津波警報などを見聞きしたら、[避難指示を待たずにいち早く海岸から離れ、可能な限り高い場所に避難しましょう](#)。津波をすべて正確に予測することは難しく、東日本大震災では当初予測された数値よりも遙かに高い例がありました。第一派波、第二派と複数にわたり襲来する可能性があるので、津波警報・注意報が解除されるまでは避難を継続しましょう。絶対に家や職場に戻ってはいけません。



出典：復興庁『るるぶ特別編集 福島の復興と再生の歩みを学ぶ』より
 <参考> “防災の手引き～いのちとくらしをまもるために～” 首相官邸
 “災害が起きた前にできること” 首相官邸
 “防災情報のページ みんなで減災” 内閣府

“もしも”に備える

家の中でできること

大地震では倒れてきた家具の下敷きになって亡くなられる方や大けがをされる方がたくさんいます。**家具を固定する突っ張り棒やドアストッパーなどの防災アイテムを用意しましょう。**また、寝室や子供部屋にはなるべく家具を置かない、倒れた時にドアをふさがないなど、向きや配置にも気を配りましょう。



備蓄や非常袋を用意

電気やガス、水道などライフラインが止まった場合を想定して、最低3日分は備蓄が必要です。*水、非常食、トイレットペーパーなど防災専用の特別なものでなくともよく、普段の生活で食べたり、使ったりするもので、問題ありません。また、いつでも持ち出せるように非常用持ち出し袋があると心強いでしょう。*大規模災害発生時は1週間分が望ましいとされています。



携帯しておきたいもの

災害はいつどこで起きるか分かりません。ポーチに入るくらいの最低限でよいので、常にカバンにいれて持ち歩くことをおススメします。**モバイルバッテリー、マスク、ウエットティッシュ、絆創膏のほか、コンタクトや服用している薬など自分にとって無いと困るもの**を用意しておきましょう。



3.11 伝承ロードについて

アクセスMAP

主なアクセス

- 青森・八戸
 - 三陸沿岸道路（八戸市川IC～宮古北IC）経由 約2時間(130km)
 - JR八戸線～三陸鉄道宮古駅 約3時間25分
- 岩手・宮古
 - 三陸沿岸道路（宮古中央IC～鳴瀬東松島IC）経由 約3時間50分(240km)
 - 東北自動車道（盛岡南IC～東北新幹線（盛岡駅～仙台駅））経由 約3時間30分(250km)
 - 岩手県北バス（宮古駅前～盛岡駅前～東北新幹線（盛岡駅～仙台駅）） 約3時間10分
- 宮城・仙台
 - 仙台南部道路～常磐自動車道（長町IC～仙台若林JCT～いわき中央IC）経由 約2時間20分(160km)
 - JR仙台駅～いわき駅（特急利用） 約2時間10分
- 福島・いわき
 - JR仙台駅～いわき駅（特急利用） 約2時間10分

※所要時間はおよその目安で、列車や道路状況により異なります。

復興道路 & 復興支援道路で行こう!

より早く、より近くなつた沿岸部へ

震災から約10年後、東北の沿岸エリアをつなぐ全長約570kmの復興道路・復興支援道路が全線開通しました。沿岸部へのアクセスが劇的に変化しただけではなく、なんと通常は一区間をのぞき無料！（仙台港北IC～鳴瀬奥羽IC間は有料）

沿岸部をぐるりと走る際はぜひ利用しましょう。

●復興道路（三陸沿岸道路）は、八戸・久慈自動車道、三陸縦貫自動車道の総称
●復興支援道路は、宮古盛岡横断道路、東北横断自動車道釜石秋田、いわき港北高速幹線道路、東北中央自動車道（福島・喜多方・郡山・会津・福島空港）、東北中央自動車道（福島・喜多方・郡山・会津・福島空港）の総称

「3. 11 伝承ロード」とは、『津波石碑』や『伝承館』などを通して、防災に関する「学び」や「備え」を日本中に、世界に発信することで、東日本大震災を忘れず、子へ孫へ伝え続けていく取り組みをいいます。

「3. 11 伝承ロード」は、産業界（民間企業）、学校（教育・研究機関）、官公庁（国・地方公共団体）、民間（地域住民、N P O）の皆が一緒になって取り組んでいます。

東日本大震災の被災地には、被害の実情や教訓を伝える「震災伝承施設」がたくさんあります。

『伝承館』では、実際に被災したものを展示したり、当時の映像や写真などで震災の様子を学ぶことができます。

震災伝承施設の例

津波遺構たろう観光ホテル

高田松原津波復興祈念公園

山元町震災遺構中浜小学校

石巻南浜津波復興祈念公園

震災遺構浪江町立請戸小学校

東日本大震災・原子力災害伝承館

国内外に向けて、科学的根拠に基づいた正確で分かりやすい情報を発信。

1. 国内向け

WEBサイト「福島の今」の公開

復興の現状や放射線の基礎知識、福島県産農林水産物等の魅力を伝えるための様々なコンテンツを公開。



メディアを活用した情報発信

福島県浜通りの魅力を伝えるテレビ番組や福島で活躍する人物等に焦点を当てたラジオ番組。復興の現状や地域の魅力を伝える動画の配信。



イベント等を通じた情報発信

復興庁主催イベントの開催や各種イベントへのブース出展。



2. 国外向け

外国語ポータルサイト

「Fukushima Updates」の公開

外国人のよくある疑問や誤解に対して、Q&Aにより分かりやすく解説。
【英・中（繁・簡）・韓・仏・スペイン・ベトナム・タイ】



動画の配信

「福島で特別な旅を」「福島と生きる」「ふくしま復興進行形シリーズ（福島第一原発、尽きぬ食ツーリズム、復興の現状）」「ALPS処理水について知って欲しい3つのこと」の4動画を多言語化で配信



イベント等を通じた情報発信

イベントへのブース出展や国際会議等の機会を活用した情報発信



今日皆さんが考えたことを
ご家族や友人とぜひ話してみてください
被災地の現状を
たくさんの人々に伝えてください
それが復興支援につながります

福島の今

もっと詳しく知りたい方は
コチラ



福島県の「今」を伝える
復興支援ポータルサイト



復興庁 福島の今

: